

# 序

大学教育は大きな変革の時を迎えています。社会からは「何を学んだか」ではなく、「何を身につけたか（学修成果）」が問われる時代となり、大学はその期待に応える教育を提供する必要があります。確実に学修成果をあげ、より高次の学修や実務で活用できる卒業生を育成するためには、学生が自ら課題を見つけ、学ぶ習慣を身につけられる教育プログラムを構築することが重要です。

このような学ぶ習慣の体得は、従来の講義型の知識伝授では困難です。そこで必要となるのが、「能動学習（アクティブラーニング）」です。能動学習というと、PBL（Problem-Based Learning または Project-Based Learning）をイメージするかもしれませんが、PBLの導入には熟練したファシリテーターやチュータートレーニングが求められ、手間や時間を考えると授業への導入をためらう教員もいるでしょう。

実は、能動学習や双方向授業は、そこまで体系的な準備をしなくても、ちょっとした工夫ではじめることが可能です。本書は、そのためのエッセンスを詰め込んだテキストです。

本書を活用することで、以下のような授業運営が可能になります。

- 教員の問いかけから授業を開始し、学生の反応を見ながら進行する。
- 学生間での討論をとり入れ、学生自身が課題を解決できるよう促す。

これにより、学生は能動的に学ぶ習慣を自然と身につけることができます。

本書の対象は大学に入学した直後の初年次学生で、特に高校で生物学を未履修の学生を想定しています。本書を活用した授業では、高校で学ばなかった知識の伝授だけでなく、緊張感を保ちながら能動的に学ぶ体験を提供できます。その結果、知識の確実な定着が期待できます。

また、本書は主に医学・医療系の学生が使うことを想定していますが、生命科学全般を学ぶ学生にも十分対応できる内容となっています。

これまで能動学習の手法を学ぶための教科書は存在していましたが、能動学習を用いて特定の科目を教える実践的な教科書はほとんどありませんでした。本書は、そのギャップを埋めるための一冊です。

本書をもとに、多くの教員が明日から能動学習をはじめただければ幸いです。

2024年12月

鯉淵典之